ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

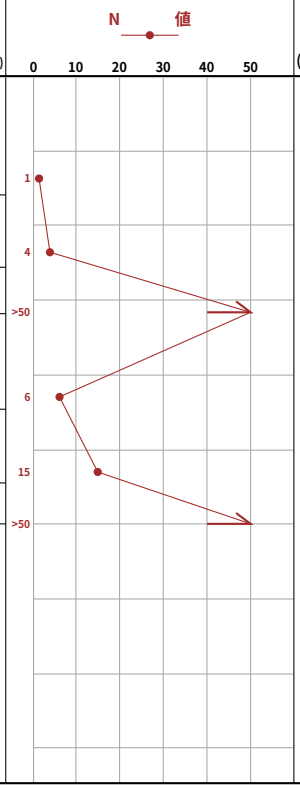
シートNO.

ボーリング名	B-2		調査位置							北　緯	36 ° 45 ’ 36.1000 ”
発注機関	栃木県矢板土木事務所				調査期間	2008-12-19 ～ 2008-12-21				東　経	139 ° 50 ’ 41.9400 ”
調査業者名			主任技師		現場代理人		コア鑑定者			ボーリング責任者	
孔口標高	253.15 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	9.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	252.30	0.85	0.85		シルト (M)	暗褐		軟らかい	未腐植根及び木枝を多く含有し、含水やや上位で非常に軟らかい。		12/20 1.00
1					砂混りシルト質粘土 (CHM-S)	暗茶灰		軟らかい	ロームの2次堆積物を優勢として、φ1mm内外のスコリア粒及びφ5～30mmの角礫を不均一に混じる。2.0～2.3mにかけて礫分が多く砂礫状を呈する。 土性は全体として含水上位で柔らかい。		
2	250.65	1.65	2.50								
	250.35	0.30	2.80		シルト混り砂礫 (GS-M)	暗褐灰	非常に密な		含水上位で緩い。φ10～30mmの角礫主体に多量の黒色シルトを含有。		
3					玉石混り砂礫 (GS-B)	暗褐灰	緩い		φ10～20mmの角～亜角礫を主体に、最大コア長65cm(推定φ1～1.5m)の転石を混じる。マトリックスは多くの細粒土分と砂分から成り、緩く充填する。		
4	249.15	1.20	4.00		粘土混り砂礫 (GS-C)	茶褐	中ぐらい		φ10～30mmの角礫を主に最大φ40mmを点在する。マトリックスは4.5m付近までが暗灰色のシルト分を，以深は茶色の粘土分を優勢に砂分から成り、全体にやや緩く充填する。		
5	247.75	1.40	5.40		溶結凝灰岩 (Wtf)	暗灰			上部20cmの範囲は風化により原岩強度が低下しており、バラバラに砕ける状態。メタルクラウンで辛うじて試錐可能。 以深は概ね新鮮でダイヤモンドビットの使用が不可欠である。亀裂頻度は非常に少なく、50cm以上のコア形状による。 7.20～8.15m間、変質が目立ち、幾分かの硬度低下を感じる。		
6											
7						茶灰					
8						暗青灰					
9	244.15	3.60	9.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1／20		1／24	2／44
1.59				
2.15	2	2	1／20	5／40
2.55	50／3			50／3
3.15				
3.18				
4.15	2	2	2	6／30
4.45				
5.15	3	4	8	15／30
5.45	50／0			50／0
6.00				
6.00				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						12/19
						12/20
						12/21